



●お知らせ 大学図書館問題研究会後援のワークショップが開催されます

学術情報ワークショップ

学術情報流通体制の新展開

デジタル技術は学術情報の流通に変容を与え、学術情報を提供する図書館そのものにも大きな影響をもたらしています。こうした環境下、早期より非来館型サービスに力を注いできた英国図書館文献提供センター(BLDSC: British Library Document Supply Centre) から、リチャード・ローマン氏をお迎えし、ネットワーク時代におけるより洗練された学術情報流通体制の新展開について議論を深めたいと思います。たくさんのご参加お待ちしております。

日 時：2002年11月7日(木) 午前9時50分開会

場 所：大阪市立大学学術情報総合センター

参加費：2,000円(資料費含む)

議事：

「学術情報流通体制の新展開とその基礎」北 克一(大阪市立大学教授)

「大学図書館の学術情報提供体制の現状と展開」田中康雄(立命館大学総合情報センター次長)

「国立大学電子ジャーナル等コンソーシアムの展開」藏野由美子(兵庫教育大学教務部図書課長)

「The changing role of the British Library within the UK and global academic community」

Richard Roman (Marketing Manager British Library Document Supply Centre)

「デジタル知識社会の文化装置」合庭 惇(国際日本文化研究センター教授)

「大学、学会、出版社：学術雑誌の未来」宮澤 彰(国立情報学研究所教授)

主催：学術情報ワークショップ：「学術情報流通体制の新展開」企画実行委員会

共催：大阪市立大学学術情報総合センター

後援：日本図書館協会・日本図書館研究会・大学図書館問題研究会・日本図書館情報学会

ワークショップ顧問：長尾 眞(京都大学総長・日本図書館協会会長)

参加ご希望の方は京都支部のホームページの申込フォームからお申込みください。

[目次]

お知らせ(学術情報ワークショップ)	1
第25回京都支部総会報告	2
「大学図書館問題研究会第33回全国大会報告 吉田誠」	7

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたはURLへお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7.so-net.ne.jp (大学図書館問題研究会京都支部)

URL：http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/

大学図書館問題研究会第 25 回京都支部総会報告

去る9月19日(木)午後7時からキャンパスプラザ(JR京都駅前)で第25回大図研京都支部総会が開催されました。定例総会は、例年7月に開催されていましたが、今年度は京都ワンディセミナー「大学図書館における電子的情報の利用と提供」が7月6日(土)に開催されることになったため、総会日時を延期しました。

総会参加者は10名と少なかったのですが、討論は大いに盛り上がり、終了予定の9時までの2時間が短く感じられるほどでした。まず、議長(支部長)より【第1号議案】「2001年度活動総括 及び 2002年度(2002.7~2003.6)活動方針」の中の「2. 2002年度活動方針 (1) 研究活動のさらなる発展と会員間のコミュニケーションの重視」を次のように修正することが提案されました。

<修正前>

今年度も会員のニーズに応えた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量形成に役立てます。具体的なテーマとして、視野を海外に広め、海外の図書館の動向をとりあげます。また会員間のコミュニケーションを促進するため支部報の発行、ホームページの充実など、一層の努力をします。

積極的に会員間の交流の機会をつくることに努めます。

<修正後>

今年度も会員のニーズに応えた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量形成に役立てます。視野を海外に広め、海外の図書館の動向をとりあげるなどの研究集会を行います。また会員間のコミュニケーションを促進するため支部報の発行、ホームページの充実など、一層の努力をします。

積極的に会員間の交流の機会をつくることに努めます。

その後、議案の内容に関連して以下のように様々な意見が出されました。

会員の減少については、会員の退職だけに原因を帰しているのか。新規会員を積極的に獲得し、既存会員の行事への参加率を高めるためには、会員のニーズを的確につかまなければならない。現場の図書館員には勉強したいけれど、研究団体と係わりを避けたいという意識があるのではないか。しかし、個人でやっていると視野が限定される。また、職場で自由にものがいえる体制ができていないのか。派遣職員にとってこのことはむしろいいかも知れないが、派遣職員が本音を言える場が実現できないか。このことに関連してアウトソーシングの現状把握をきちんとやる必要があるのではないか。政治・社会状況の変化への目配りしなければならない。また学生と教員を味方につけ、協力し合うことが大事だ。

以上のように討論の後、【第1号議案】については、上記のように一部修正の上、承認されました。続いて【第2号議案】「2001年度決算、2002年度予算及び会計監査報告」と【第3号議案】「2002年度大学図書館問題研究会京都支部役員候補」が異議なく承認されました。

【第1号議案】2001年度活動総括 及び

2002年度(2002.7~2003.6)活動方針

はじめに

昨年発足した小泉内閣は、「構造改革」の旗印のもと、競争主義を原理とした文教政策を強力に押し進めようとしています。国立大学の再編・統合、国立大学の法人化など、国立大学をめぐる情勢の変化が目立っていますが、私立大学への影響も無視することができません。「21世紀COE

プログラム」によって、わが国の大学全体が文部科学省統制下の競争に巻き込まれるとともに、私立大学への直接助成によってここにも競争原理が貫徹されていきます。この結果、一部の重点分野に資金が投入される以外は、効率化の名のもとに切り捨てられていく可能性があります。もちろん、大学の一部署である図書館もこのことと無関係であるはずもなく、現場の図書館員は、予算と人員の抑制の中で、サービスの多様化、高度化を迫られています。このような時にこそ、ひとりひとりの専門的力が問われますが、私立大学では図書館員の配転が常態化し、現場での経験の蓄積というものが成り立たないという状況になっています。また専任職員はマネジメント業務を担当し、派遣職員や臨時職員が実務を担当するという構図が拡がりつつあります。

こういった困難な条件の中で、個々の図書館員の能力のレベルアップをはかるためには、雇用形態を問わず、すべての図書館員が協力し合い、情報の交換や研修の機会が継続的に提供されることが必要です。そのことが結果として利用者へのサービス向上につながることを積極的にアピールしていかなければなりません。また、幅広い人的ネットワークを得て、利用者や書店・出版関係者とも積極的に交流し、良好な協力関係を築いていくことが必要です。

大学図書館問題研究会京都支部では、このような状況を踏まえ、図書館員のより高度な力量形成に向けて活動を展開して来ました。

1. 2001年度活動総括

(1) 京都ワンディセミナーの開催と会員間交流

昨年度からの連続企画である大図研京都セミナー2001「ネットワーク環境下における図書館サービス」を好評のうち無事終了しました(2001年4月～2001年8月 延べ参加者数200名)。これを受け、2002年7月6日に京都ワンディセミナー「大学図書館における電子的情報の利用と提供」を開催しました。講師として、電子的情報の提供者側からは東北大学附属図書館事務部長坂上光明氏、利用者側からは京都大学工学研究科教授引原隆士氏に引き受けていただき、幅広い意見の交換が実現できました。今回は非会員の参加者が多かったことが特徴として挙げられます。

また5月25日には司馬遼太郎記念館見学会を開催しました。参加者からは、好企画という評価をいただきました。

(2) 支部報

執筆者の確保については、いつも苦勞していますが、まず支部委員が積極的に執筆することを心掛けました。テーマとしては、「電子図書館」、「インターネット活用法」「データベース講習会」などが取り上げられました。また一般会員からの投稿やセミナー・見学会の感想など誌面の内容をバラエティに富んだものにすることができました。数珠つなぎは継続していますが、他支部へ拡げることがまだ軌道に乗っていません。

現在、編集体制が十分でないため、支部報の発行に遅れが目立ってきています。内容面の充実とともに、編集体制の改善に努めます。

(3) ホームページとメーリングリスト

7月6日に開催された京都ワンディセミナーでは、ホームページの申込欄を通しての参加者が多かったです。

メーリングリストについては、支部委員会報告や行事の案内などコンスタントに情報を会員に提供するように努めてきました。

(4) 組織活動

会員数は91名(2001年6月現在)から85名(2002年6月現在)と減少しています。

会員の獲得については、あらゆる機会をとらえ、積極的に勧誘を努めていますが、退職による退会者が上回ったかたちになっています。引き続き、組織的な取り組みが必要です。

(5) 財政活動

財政活動については、支部委員会として毎月状況を把握するとともに、前年度に引き続いて積極的な会費納入の働きかけを行っていますが、2001年度会費の納入率は6月現在で82%です。

2. 2002年度活動方針

(1) 研究活動のさらなる発展と会員間のコミュニケーションの重視

今年度も会員のニーズに応えた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量形成に役立てます。視野を海外に広め、海外の図書館の動向をとりあげるなどの研究集会を行います。また会員間のコミュニケーションを促進するため支部報の発行、ホームページの充実など、一層の努力をします。

積極的に会員間の交流の機会をつくることに努めます。

(2) 支部報について

編集体制を改善し、定期発行に努めます。

会員の多様なニーズに応え、各人のスキルアップに貢献できる内容になるよう努力します。

読みやすい紙面づくりを心がけます。

できるだけ多くの人に執筆していただけるよう努力するとともに、投稿規定も整備します。

(3) 会員を増やす活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。特に若手の会員を増やし組織の若返りをはかることを重視します。

そのために魅力ある企画を立てるように努力します。

(4) 会費を全員が前納します。

会員としての義務である会費納入を全員が確実に行いましょう。

財政活動を一層前進させるため、支部委員会において、毎回担当者から報告と提案を受け、全員で取り組みます。

また、個々の会員に積極的に声をかけ、会費納入をはたらきかけます。

【第2号議案】2001年決算、2002年度予算及び会計監査報告

2001年度決算 (2001.7-2002.6)

総収入	総支出	差引残高
650,736	519,408	131,328

収入の部

項目	予算	決算	差引額	備考
前年度繰越金	160,577	160,577	0	
2001年度会費	218,700	185,300	33,400	68名+1名(前年徴収分)
2000年度会費	27,000	6,800	20,200	4名
支部報購読会員	0	2,000	△2,000	1名
支部活動援助金	10,000	10,000	0	
雑収入	0	32,059	△32,059	寄付・利息
支部セミナー参加費	0	220,000	△220,000	大図研京都セミナー2001(3,4回参加費延べ76名・懇親会延べ29名)
ワンデイセミナー参加費	0	34,000	△34,000	ワンデイセミナー(2002.07参加費34名)
合計	416,277	650,736	△234,459	

支出の部

項目	予算	決算	差引額	備考
会報	50,000	53,032	△3,032	
(内訳)				
印刷費	10,000	19,812	△9,812	
郵送費	40,000	33,220	6,780	
研究交流集会費	212,000	409,799	△197,799	
(内訳)				
新春合同支部例会	20,000	0	20,000	
支部例会	20,000	0	20,000	
京都研究集会	20,000	0	20,000	
支部総会	10,000	12,550	△2,550	
支部セミナー	142,000	397,249	△255,249	大図研京都セミナー2001(3~5回)・ワンデイセミナー(2002.07)
全国委員会参加補助費	30,000	20,000	10,000	
事務費・通信費	10,000	6,577	3,423	
HP維持費	24,000	30,000	△6,000	
予備費	89,277	0	89,277	
雑費	1,000	0	1,000	
合計	416,277	519,408	△103,131	

2002年度予算 (2002.7~2003.6)

収入の部

項目	予算	備考
前年度繰越金	131,328	
2002年度会費	232,200	86名
未納会費	80,200	2001年度19名・2000年度12名・1999年度以前5名
支部活動援助金	10,000	
合計	453,728	

支出の部

項目	予算	備考
会報	65,000	
(内訳)		
印刷費	25,000	
郵送費	40,000	
研究交流集会費	130,000	
(内訳)		
新春合同支部例会	20,000	
研究会	100,000	
支部総会	10,000	
全国委員会参加補助費	30,000	
事務費・通信費	10,000	
HP維持費	24,000	一ヶ月2,000
予備費	194,728	
合計	453,728	

2001年度 特別事業基金

2001年度は特別事業基金繰入はなし。

現在の特別事業基金は174,850円です。

2001年度大学図書館問題研究会
京都支部会計監査報告

帳簿及び現金は適正に保管・記載されていた。

2002年8月15日

堤 豪範 (印)

那須たみ子 (印)

【第3号議案】2002年度京都支部役員候補

支部委員候補 (50音順)

赤澤 久弥 (京都大学工学研究科・工学部電気系図書室)
井上 敏宏 (京都大学医学図書館)
大館 和郎 (京都学園大学図書館事務室)
金森 孝之 (京都大学経済研究所図書室)
呑海 沙織 (京都大学附属図書館)
村上 美代治 (龍谷大学学術情報センター瀬田図書館)
吉田 誠 (京都大学工学研究科・工学部物理工学系図書室)

監査委員候補 (2名)

西川 慈子 (京都大学附属図書館)
福井 京子 (京都大学教育学研究科図書室)

全国委員候補

呑海 沙織 (京都大学附属図書館)

大学図書館問題研究会第33回全国大会報告

吉田 誠

2002年大図研全国大会会場、千葉大学。

駅を出たロータリーの先にはもう門が見えている。夏休みであることを割り引かねばならないだろうが、駅近くのキャンパスにありがちな便利さと引換えの狭隘さはなく、構内はゆったりとしている。野球でもできそうなスペースが所々にある。ついシートを広げお昼を食べたくなるような芝生もあり、昼寝をしても心地よさげである。車や自転車があふれ、気を抜けば轢かれそうになる勤務先の大学、もちろん昼寝のできる芝生などありはしない、とはえらい違いである。都心を離れているとは言え、駅から乗ったバスにどこに連れて行かれるのやら不安にさせられる大学も都内に少なからずあることを考えると、恵まれた環境である。

そのキャンパスの夾雑さをいかんともしがたい京都大学であるが、本の中に登場することは少なくない。場所を本文中に限らず、後書きにも登場する。そして京都大学の図書館も登場する。

後書きで触れられる図書館は、たいがい資料の利用でお世話になった、どうもありがとうという、そんなお礼など言っていたかなくともというパターンのもが多いが、恨み節もある。「牢獄のような個人研究室で…」、「地獄のように暑い(寒い)…」、「暗く迷路のような書庫で…」などなど。

これらは空調の導入など、設備の近代化された今では昔話にしまえなくもない。だが、電子ジャーナルの登場など、文献入手に図書館というハコが必ずしも必要とされない状況も出現している。利用者を大学図書館に引きつける戦略として、より快適な読書空間を提供していくことも重要になろうかと思うが、冒頭で触れたような、昼寝のできるような芝生に寝転がって本を読む、そんな環境もほしい。大学図書館が提供する読書環境の範疇からはみ出してしまうが…

さて、これで終わることができれば楽であるが、千葉大学に行ってきました、いいな、きれいでした、と、まるで子どもの使いである。幸い(?)分科会にはまだ触れていないので、分科会とそれに関連する雑感でまとめようかと思う。

私が参加した分科会は著作権分科会および出版・流通分科会である。内容については、『大学の図書館』でつかんでいただけだと思うのであまり触れないが、著作権分科会は参加者のディスカッション形式で進められ、著作権法31条の制限規定や公衆送信権の議論が主であったように思う。出版・流通分科会では専門書出版社より講師の方をお招きして、書籍流通の現状、特に二大取次制の機能不全と委託販売制の危機、改善策についてお話いただいた。雑誌の紙面で出版危機という言葉を目にすることはあっても、日々の業務ではメールで書店に発注し、椅子に座って待っていれば、絶版や品切れでもない限り書店が持ってきてくれる。このような私にとって、鈴木書店の破綻など、現状の書籍流通の問題を、出版サイドから生の声で聞くことができたのは、有意義であったと思う。

さて、二つの分科会を当日の内容から見ると、あまり関連性はない。分科会を共通のテーマのもとで運営する決まりがあるわけでもないから当然と言えば当然である。だが、著作権と出版は切っても切れない関係にある。粗雑なきらいはあるが、出版とは著作物を(印刷物の形で)流通させることであり、その著作物に対する権利関係を規定する法律が著作権法である、とすることができるからである。そしてその著作権法は、著作物を流通(出版)させることができるのは、(一部の例外を除き)権利を持つ者に限られる、と定めている。近頃大学からの情報発信の必要性を訴える声が少なからずある。情報を自らの手で流通させることを意図しているのであろう。この意義を否定するつもりはない。だが、何を流通させようというのだろうか。学術情報であろうか。ではその学術情報を流通させる権利は、どこの誰が手にしているのか。著作権や出版・流通と大学、そして情報発信の担い手とされる図書館との関係をこのような点から考えてみるのも面白いのではないかと思う。

よしだ・まこと (京都大学工学研究科・工学部物理工学系図書室)

【編集後記】

今回から支部報のデザインおよびサイズを変更させていただきました。タイトルのロゴは京都支部メーリングリストの名称である「ゆりかもめ」を図案化したものですが、それと同時に本を開いたイメージでもあります。2002年度活動方針にもありますように、読みやすい紙面づくりを心がけていきたいと思っております。また近く投稿規定などお知らせしたいと準備中です。皆様の投稿やご意見などもお待ちしております。何卒、よろしくお願い致します。

(I)